

## 平成28年度 第1回 磐田市歴史文書館運営審議会

日時 平成28年8月3日(水) 13:30~15:02

場所 磐田市竜洋支所 2階 会議室

出席者 市歴史文書館運営審議会委員 7名

小杉会長 高橋副会長 鈴木潔委員 市川委員 杉浦委員 玉田委員 鈴木博雄委員

出席職員 教育委員会教育部職員 7名

村松教育長 秋野教育部長 高梨課長 飯田館長 山室副主任 名倉囑託 鮫嶋囑託

傍聴人 なし

議事

### 1. 報告事項

#### (1)非現用公文書等の移管選別状況について

〔事務局より説明〕

〔委員〕 土質標本はどのようなものか。例えば、天竜川や海岸線を調査したものか。

〔事務局〕 公共施設の建築前に行うボーリング調査に係る土質標本です。

〔委員〕 福田町の公文書収蔵件数が竜洋町等に比べ、少ないように感じるが。

〔事務局〕 竜洋町公文書が多いのは、かつて竜洋町役場であった竜洋支所に、文書館が設置されたことが要因と考えられる。一般的に、庁舎の建て替えがあると、公文書は減る。福田町は、合併直前に庁舎を建て替えている関係もあるかもしれない。合併前の市町村の処務規定の内容は、それぞれ異なっている等、いろいろな条件が重なったことが想定される。今、同じ基準で選別し、歴史文書館に残されるのは意義があることと思う。

#### (2)平成27年度及び平成28年度前期(第17回)企画展について

〔事務局より説明〕

〔委員〕 アンケート結果で、「丁寧な解説、ありがとうございました」、「説明者の対応がよかった」などの意見があり、職員が丁寧、親切に対応してくれていたことわかり、自分がうれしい気分になった。一方、実地探訪、1日ツアー計画を企画してほしい等の意見があり、気になった。

〔事務局〕 展示の説明に関しては、特に意識して、親切に説明する対応に努めている。このような評価をいただき嬉しい。展示に係る実地探訪については、27年度前期の企画展では、現地見学会を行っている。今回、記載しているアンケートの企画展は、開催時期が1~2月の寒い時期であったことや、実施する場合にはコースの安全性など、総合的に考える必要があったため、実施を考えたができなかった。今後は、安全性、季節的なものを踏まえて、可能ならば実施していきたい。

〔委員〕 「日曜日は入場者が多いので、説明するスタッフは複数があるのではないかと中央図書館開催企画展のアンケートにあるが、美術館のように説明時間を決めて説明をしたのか、それとも随時説明をしたのか。展示室の入口に「〇時と〇時に職員による説明があります」等と書いて掲出しておけば説明員は一人で済むので、どうか。

〔事務局〕 説明は随時行っている。スタッフを複数にすることについては、そうしたい思いはあるが、限られた職員体制、説明する知識の差などがあり、そのような対応ができない状態である。来館者も様々な方がいるため、知識のレベル等に応じ、臨機応変に説明対応している。時間を決めて説明を行うことも検討したい。

### (3)レファレンス利用状況について

〔事務局より説明〕

〔委員〕 複写やデジタルカメラ撮影の可否の区分を教えてください。

〔事務局〕 公開許可が出ている資料は、申請を出していただければ、複写やデジタルカメラ撮影ができる。

〔委員〕 専門的なレファレンスは、すぐに答えられない場合も多いと思うが、どのように対応しているのか。

〔事務局〕 回答ができない場合もあるが、具体的な資料名等がわかれば、可能な範囲で対応させていただいている。

〔委員〕 回答のコピーを送付することは可能か。遠方の方への対応は。

〔事務局〕 コピーの郵送は可能であるが、正確な資料のコピーのため、できるだけ来館いただくようお願いをしている。

### (4)地域史料の受入れ整理状況について

〔事務局より説明〕

〔委員〕 静岡大学からの寄贈資料整理は、こちらで行うのか。

〔事務局〕 歴史文書館で行う。ただし、静岡大学で整理した分と、未整理分も寄贈されているため、未整理分の整理を歴史文書館で行うこととなる。

〔委員〕 鈴木さんのお宅からは、福田半香、大竹湘堂の絵を寄贈してもらったのか。内容さえ良ければ、文化財になるものだと思う。

〔事務局〕 寄贈いただいた。真贋の鑑定はしていない。

〔委員〕 受け入れ態勢ができているからこそ、寄贈していただける。嬉しいことだ。

### (5)古文書解説上級講座について

〔事務局より説明〕

〔委員〕 ボランティアには、断簡ではなく、少なくとも半分や3分の2以上、内容が残っているものを勘考して、解説してもらうべきではないか。

〔事務局〕 気持ちよく活動いただくために、準備段階で資料の取捨選択を行っていくように努めたい。

〔委員〕 今後は、養成講座を行うのか。

〔事務局〕 今年度は、講座対応できる職員がいないため、養成講座はできない。以前学んだ方々が、今年度のように支援してくださっているので、今後については検討したい。

〔委員〕 ボランティアの方々は積極的に楽しんで作業を行っている。このような方々が多く出てきてくれれば、基礎資料が充実していくのではないか。

〔事務局〕 新聞に掲載された関係で、講座の開設を期待する声も出ている。掛川市から、この事業についての問い合わせがあり、波及効果があったと感じる。

(6)福田町史編さん事業について

〔事務局より説明〕

- 〔委員〕 資料編Ⅵの印刷はケイ・アート、通史編は泉崖堂が印刷したが、金額は下がったか。
- 〔事務局〕 入札の結果は 405 万円程であった。
- 〔委員〕 シンポジウムのアンケートに、マイクに関する意見があるが、聞きにくかったのか、音が小さかったのか。
- 〔事務局〕 来場者には申し訳なかったと思う。マイクの調子が少し悪かったのかもしれない。
- 〔委員〕 通史編の販売数の本 80、DVD20 は予想の範囲か。
- 〔事務局〕 本はおおよそ想定の範囲内だったが、DVDはもう少し伸びるのではないかと考えていた。
- 〔委員〕 興味のある人は多いと思うが、高齢者は買う余力、買ってまで読む力がなくなってきている、そんな現状ではないか。
- 〔事務局〕 価格が少し高いという意見もあった。
- 〔委員〕 以前刊行した「福田町の歴史」と今回刊行した「通史編」は、両方を読まないで、福田町の歴史はわからないのか。内容が重複していないか。
- 〔事務局〕 「福田町の歴史」は諸事情により、町内の貴重な資料の一部を反映できなかった。今回は、前回の課題も解決でき、新たに分かった歴史も多くあり、原始古代から現代までをまとめたので、今回の「通史編」を読んでいただければと思う。内容が重複している部分はある。前回、買われた方が「福田の歴史はもう知っているから買わない」と考えた方もいたかもしれない。
- 〔委員〕 普通、市町村史の編さんは 50 年後 100 年後になるが、続けて 2 回出すことは滅多にない。

2. 協議事項

・企画展について

(1)平成 28 年度後期(第 18 回)企画展 (仮題:「福田地域の歴史」)

(2)平成 29 年度前期(第 19 回)企画展

(仮題:「見付宿の移り変わり」又は「新指定、秋鹿家文書」)

〔事務局より説明〕

- 〔委員〕 今年の秋は、福田地域の歴史、来夏には見付にするのか、中泉にするのかの二案がある。まず、福田町の歴史についてはどうか。
- 〔委員〕 案の主な展示物をみると、福田町の歴史が総花的過ぎると感じる。寺田家の文書に焦点を当てた展示としたらどうか。
- 〔委員〕 歴史文書館で展示は行わないのか。
- 〔事務局〕 先ず、福田中央交流センターで展示を行い、その後、歴史文書館、中央図書館で展示を行いたいと考えている。
- 〔委員〕 寺田家の文書だけでも、興味深いものが相当あると思う。それを前面に押し出

したほうが良いのではないか。

〔事務局〕 内部の検討の中でも、総花的過ぎるとの意見や、産業的な部分を全面的に出したらどうか等の意見がある。持ち帰って、検討したい。

〔委員〕 「(2)中世の福田 地域と信仰」とあるが、豊浜のおはこさまも含まれるか。

〔事務局〕 前計画通りで進めれば、そういうことになる。

〔委員〕 福田地域を知る上では、全体をコンパクトにまとめてもらうほうがわかりやすい。

〔委員〕 寺田家の文書だけでは、企画展としての興味が湧かないと思う。見て楽しむ内容もなかったら、面白味がない。寺田家 1 本に絞るのはいかがなものか。

〔委員〕 寺田家をメインにして、あとは産業とか元島を並べる、そんな内容にしていたきたい。

〔委員〕 出された意見を参考に、事務局で考えてください。次は、29 年度前期企画展について、見付宿にするか秋鹿家にするか、意見をお願いします。

〔委員〕 見付宿の主な展示物は、歴史文書館に有るものか。

〔事務局〕 借りるものも多少出てくるが、文書館所蔵の文書を主体に展示したい。

〔委員〕 見付の方が資料を多く持っている。お借りしたらどうか。

〔事務局〕 見付宿に関する資料は、「見付宿を考える会」や個人でも所有されている方がいる。関係する方から協力を得て進めていきたい。

〔委員〕 第 2 案の秋鹿家文書は、袋井市で展示計画があるということで、順番は見付宿を 29 年度前期企画展のテーマにするということで良いでしょうか。

〔委員〕 「異議なし」の声あり。

〔委員〕 「見付宿の移り変り」を来年度の上半期のテーマとさせていただきます。内容については、事務局で案を練ってください。